

令和 8 年 3 月 5 日

報道機関 各位

熊本大学  
マイクロニクス株式会社

熊大単独特許を技術移転：  
吸光度計「POTA（ポッタ）」の販売開始  
～マイクロニクス株式会社とライセンス契約を締結～

- 分析化学やバイオの実験において、目的の物質を分析するために吸光度測定\*が多用されています。
- 農業や環境、医療の現場、その場で検査・分析が可能なポータブルデバイスを開発しました。
- 細胞培養関連分野だけでなく、化学関連分野、バイオテクノロジー関連分野での活用も見込めます。

**[研究内容の発表について]**

本リリースにおける研究内容については、3月の定例学長記者懇談会で発表いたします。改めて総務部総務課広報戦略室からご案内いたしますので、ぜひご出席いただきますようお願いいたします

**【第54回定例学長記者懇談会】**

**日時：令和8年3月11日（水）14:00～15:00（予定）**

**場所：熊本大学本部棟1階大会議室**

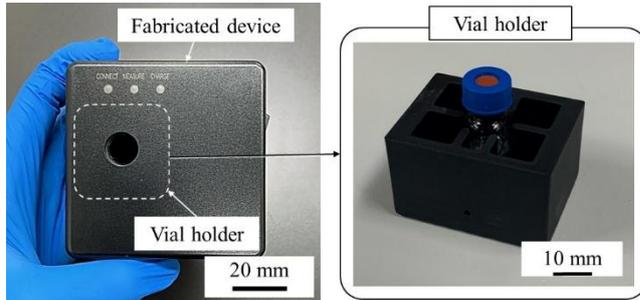
**(概要説明)**

熊本大学では、大学院先端科学研究部（工学系）の中島雄太准教授が発明し、特許登録となった「特許第7426428号：光学測定器用サンプルホルダおよび光学測定器」について、マイクロニクス株式会社（東京都八王子市）へライセンスアウトし、同社より製品名「POTA（ポッタ）」として販売されることになりました。

本発明では、独自の導光路構造を採用したポータブル測定デバイスを開発（特許登録）し、タンパク質やアミノ酸の定量、ウイルス検出の高感度測定を実現しました。デバイスの特徴として、小型、軽量、かつ充電式のスタン

ドローンで使用可能であり、パソコンの電源への接続でも駆動可能な分析装置です。そのため、農業や環境計測の現場、大学の化学実験など、その場分析ツールとしての実用化が可能です。

スマート農業や自然資源の持続可能な利用の実現に向けてオンサイトで手軽に分析評価ができるポータブル型デバイスの需要が高まっています。水質や大気その場分析や、野菜・果物、牛・豚などの家畜の感染症を現場で迅速に評価するデバイスにより、環境保全や食料自給率の向上に寄与します。



大学で開発した吸光度測定機器



マイクロニクス株式会社から販売される製品「POTA」

#### [用語解説]

(※) 吸光度測定：物質が特定の波長の光を吸収する性質を利用し、溶液に光を当てて透過光の減少量（吸光度）から物質の濃度や存在量を定量する分析手法。

#### 【お問い合わせ先】

(研究内容)

熊本大学大学院先端科学研究部

担当：中島 雄太（准教授）

電話：096-342-3743

e-mail：[yuta-n@mech.kumamoto-u.ac.jp](mailto:yuta-n@mech.kumamoto-u.ac.jp)

(製品・販売に関すること)

マイクロニクス株式会社

<https://micronix-jp.com/>

※ポータブル吸光度計 POTA(ポッタ)

<https://pota-abs.com/>

※分析機器用ソフトウェア Home-Lab(ホームラボ)

<https://micronix-jp.com/software/home-lab/>

上記ウェブサイトからお問い合わせください